

**大学と動物園の協働による環境教育の展開**  
**～南アルプスの現状と課題、そして人と自然との共存を考える～**  
**Development of Environmental Education through Collaboration between**  
**Universities and Zoos**  
**～Considering the Current State and Challenges of the Southern Japan**  
**Alps, and the Coexistence of Humans and Nature～**

○山本真弦・今井優人・城取七音・瀧澤大輔・田中琉登・中村夢叶・三村輝香涼  
○Yamamoto Maito, Imai Yuto, Sirotori Naoto, Takizawa Daisuke, Tanaka Ryuto,  
Nakamura Muka, Mimura Akari

松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 4年

[要約] 本研究は、長野県飯田市の飯田市立動物園と松本大学田開ゼミは、動物園を活用した環境教育を実施した。参加者は、飼育員による動物ガイドを受けながら園内を巡り、ゼミ生による環境問題の解説を通じて、動物と自然環境のつながりを学んだ。その後、南アルプスで起きている環境問題についてディスカッションを行い、野生動物の生息地や地球温暖化との関係について考えた。参加者からは、「意見を交わすことで新たな気づきがあった」「動物園が環境問題を学ぶ場になると知った」といった声が寄せられた。動物園は、ただ動物を見る場所ではなく、人と自然の共存を考える場でもある。この活動を通じて、環境問題を自分ごととして考えるきっかけを提供できたと考える。

## 1. はじめに

本研究では、松本大学田開ゼミと飯田市立動物園と合同で「動物たちから考える南アルプスの未来」と題する企画を行った。この企画は、2024年11月9日(土)に飯田市立動物園で実施し、動物園散策とディスカッションを行った。

今回の企画の会場として利用させていただいた飯田市立動物園は、長野県飯田市の中心市街地にある動物園だ。市が管理していて、無料で入園することができる。飯田市立動物園は、1947年に飯田の市街地で起きた大火を契機に誕生した。敷地面積が小さく、ゾウやライオンなどの大型の動物を飼育しているわけではないが、今でも地域の人に愛される動物園となっている。

## 2. 研究目的および方法

この研究の目的は、環境問題への取り組み

と動物園による教育を目的に行った。

昨今、脱炭素社会の実現やSDGsといった環境問題に関する言葉が関心を集めている。現代では、地球温暖化による環境問題がより顕著に表れており、異常気象などによって私たちの生活にも多大な影響を及ぼしている。地球温暖化は環境問題以外にも様々な問題を引き起こす要因であり、今回取り上げている動物園の動物たちにも関係している問題だ。今回の企画のタイトルにある「南アルプス」ではシカの食害が起きており、シカの食害も地球温暖化が関係している。だが、多く人は獣害と地球温暖化の関係について、知らない人が多くいる。企画によって、動物に関する問題を知り、身近な場所の環境問題について知ってもらい、行動を起こしてもらうことを目指した。そのため、企画の舞台である飯田市の人々の身近にある南アルプスについて取り上げた。

今回の企画で飯田市立動物園を会場として選んだ理由は、飯田市の人々の身近にある動物園であるという理由と、多くの人に動物園が教育施設であることを知ってもらうことが理由としてあった。本来、動物園には動物の研究と研究結果を普及することが目的としてある。しかし、多くの方は動物を見て楽しむ娯楽施設であると認識し、ニュースなどのメディアでも、動物園ではなく動物園で飼育されている有名な動物を取り扱っているものがほとんどだ。そのため、動物園が教育施設であると知ってもらうことも企画の目的とした。

研究目的を達成するために、飯田市立動物園で企画を実施し、企画では動物園散策とディスカッションを行った（図1）。

動物園散策では、飯田市立動物園の飼育員に協力していただいた。散策では飼育されている動物を中心に、動物たちを取り巻く地球温暖化などの環境問題を取り扱った。また、動物の減少や地球温暖化が人間の活動によって引き起こされていることも伝え、地球温暖化が様々な問題が複雑に絡んだ問題であることを知っていただいた。



図1 散策の様子

ディスカッションでは、「南アルプスでなぜシカが増えてしまったのか？」をテーマに参加者の方に話し合っていた。まずシカが増えてしまった原因を考えていただき、その原因を解決するにはどうするか、解決方法についても考えていただいた。また円滑なコ

ミュニケーションが行えるようにディスカッションのチームに田開ゼミ生も参加し、進行やアドバイスなどを行うようにした。さらに客観的な事実をもって話し合いを行うことができるように、事例やデータを記載したファクトカードというものを用意した（図2）。



図2 ファクトカード一例

解決方法について話し合っていた際には、参考として田開ゼミ生が考えた解決方法をアクションカードとして提示した（図3）。



図3 アクションカード一例

動物園散策での内容とファクトカード、アクションカードをもとに、解決方法をそれぞれチームで考えていただき、全体に向けて発表していただいた。企画の最後に、宣言として個人でできる環境問題を解決するための取り組みを発表していただいた。

### 3. 結果と考察

企画終了後に参加者に対して、アンケートを実施した。アンケートの質問内容は表1のとおりである。

表1 質問内容一覧

質問番号	質問内容
1	今回のイベントについて、当てはまるものをお選びください
2	動物と環境問題のつながりや課題について理解できた
3	身近な環境問題と地球上で起きている環境問題を重ねて考えることができた
4	今から自分ができることを考えようと思うきっかけになった
5	今後このような企画が行われたら参加してみたいと思いますか
6	今回のイベントに対してご意見等ありましたら、ご自由にお書きください
7	散策中に初めて得た情報はありましたか？また、そこから何を学びましたか？
8	他の参加者の話や意見を聞いて自分の考えとの違いや、気づきがありましたか？
9	宣言を記入してください
10	そのような宣言を掲げた動機、きっかけはどのようなものですか？
11	その宣言を遂行するためにどのような行動をとるのか具体的に記入してください

この設問のうち、1～5の問題が選択式の質問となっており結果は表2、表3の通りになっている。

表2 問1 今回にイベント内容について

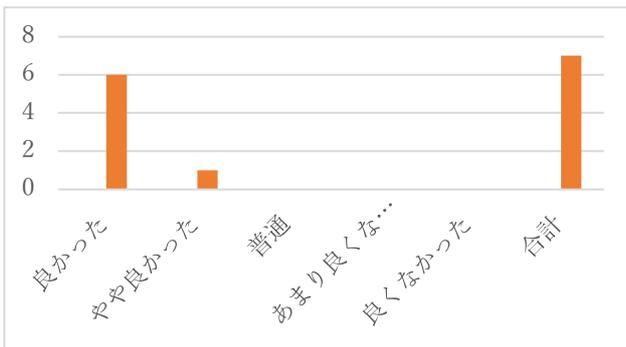
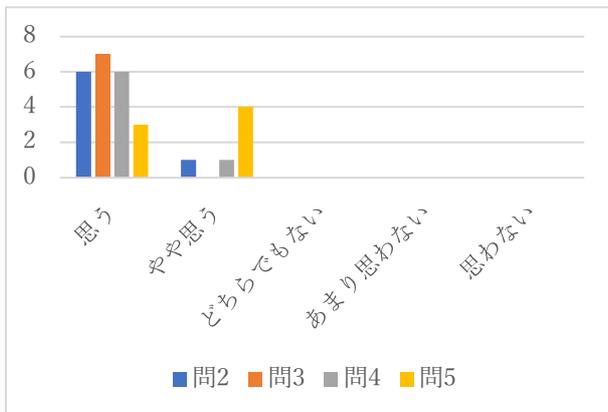


表3 アンケート集計結果（問2～5）



今回の企画の参加者は合計で7人、参加した全員からアンケートの結果を得ることができた。

問6～11の質問は記述式の設問となっている。アンケート結果を通して、参加者の意識の変容や企画で実施した内容に関する記述が多く見られた。そのため、私たちが設定した目標を達成することができたのではないかと考えている。特に企画の最後に行った宣言に関する質問内容の問9、10で顕著にみる事ができた。問9で記述していただいた主な宣言内容は、ジビエの積極的な活用、自身の暮らす地域の獣害対策について調べる、節電や節水を心掛け生活改善を行うなどがあった。動物園散策やディスカッションの内容を踏まえた宣言をしていただいたと考えている。問10の宣言を掲げた動機やきっかけについては、シカが多く生息する地域に暮らしているが自治体がどのような取り組みを行っているか知りたかったから、シカの数を減らすと考えたときに命をいただいているということや、考えたかったから、身近な地域から地球温暖化について考えたいと思ったからなど、ディスカッションを通しての意見が多かったと感じている。

私たちは今回の企画を通して、想定した目標を達成することができたと考えている。しかし、いくつかの課題もある。一つ目は、参加者の年齢の偏りがあったことである。当初は幅広い年代での募集を考えていた。だが、宣伝の不手際で、参加者のほとんどが大学生となってしまった。そのため、他の年代の人たちの考えを聞いていただく機会を作ることができなかった。二つ目は、大学生の経験を動物園側に伝えることができなかったことである。今回の動物園散策では、飼育員に散策で取り扱う動物や内容を考えていただいた。また環境問題についての内容は、大学生が考えた。飼育員が考えた内容には、動物園の実情が含まれていた。田開ゼミは飯田市をフィールド一度に活動しており、シカの食害についても活動中に学んでいた。しかし企画中で、飯

田市を通して学んだことを、参加者に対してほとんど伝えることができなかった。

上記のような課題もある企画であったが、多くの人が身近な場所の環境問題について考える入り口を作ることができたと考えている。

#### 4. おわりに

地球温暖化などの環境問題は世界規模の問題であり、世界が一体となって解決する必要のある問題だ。今回行ったような企画を行うことで、多くの人が環境問題を知り行動を起こしてもらうことで、環境問題の解決につなげていくことができると考えている。また今回の企画では動物園と協働して企画を行ったが、様々な団体と協働を行うことで、多様な企画の情勢を行うことが可能だと考えている。先述したように環境問題は様々な問題が複雑に絡み合った問題である。多種多様な産業や方法でアプローチしていく必要があると考えている。今回のような大学と動物園に留まらず、様々な団体が協力することで、環境問題を解決していくことができると私たちは考えている。

#### 注

朝日新聞デジタル どうぶつ新聞 -ニュース特集

<https://www.asahi.com/special/animal/?msocid=0887d43d9ee96f590db6c59f9fe66eb0>

(2025年1月27日確認)

どうぶつもひとこ心地よく-飯田市立動物園

<https://iidazoo.jp/>

(2025年1月27日確認)

J A Z A

<https://www.jaza.jp/>

(2025年1月27日確認)

地球温暖化による野生生物への影響 WWF ジャパン 2024年

<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/286.html>

(2025年1月27日確認)

TBS NEWS DIG 動物園ニュースのニュース一覧

<https://newsdig.tbs.co.jp/list/search?fulltext=%E5%8B%95%E7%89%A9%E5%9C%92%E3%80%80%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9>

(2025年1月27日確認)

電気柵 鳥獣被害対策ドットコム(株式会社地域環境計画)

<https://www.choujuhigai.com/c/products/electric-fence>

(2025年1月27日確認)

百名山の伊吹山で繰り返される土砂災害 その原因は…? NHK 2024年

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241003/k10014596741000.html>

(2025年1月27日確認)

#### 引用文献

朝岡幸彦編 (2023) 『動物園と水族館の教育 SDGs・ポストコロナ社会における現在地』学分社 p12~25、p26~39、p40~49、p86~93、p94~101、p109~117、p126~147  
羽山伸一 (2008) 『野生動物問題』 地人書館 P39~92